

1 計画の目的

持続可能な「星の郷」まちづくり計画は、「星空保護区(コミュニティ部門)」認定による美しい星空環境のブランド価値向上を機に、将来に渡っての持続可能な成長につなげていくことを目的に、観光振興を軸にどのような取組を行うべきかを記載したものです。本計画に基づいた事業の実施を通じて、「美しい星空」などの地域資源の魅力に磨きをかけ、交流人口・関係人口の増加を図り、地域活性化につなげます。

2 計画の位置づけと期間

本計画は、井原市の人口減少問題に対応しながら地方創生を成し遂げるため実施する計画である「第2期元氣いばらまち・ひと・しごと創生総合戦略」における目指すべき将来方向との整合性を取るものであり、そこに示される基本目標及び基本的方向、具体的な施策をより具体化・実現化するために策定します。
計画期間: 令和4(2022)年度～令和7(2025)年度までの4年間 ※第2期総合戦略と終期を合わせます。

第2期元氣いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和4(2022)年度～令和7(2025)年度)

将来像: ～住んでよかった、住み続けたい、住んでみたい～ 魅力あふれる 元氣なまち いばら

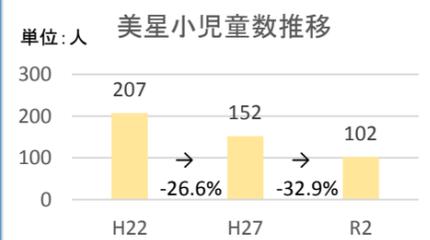
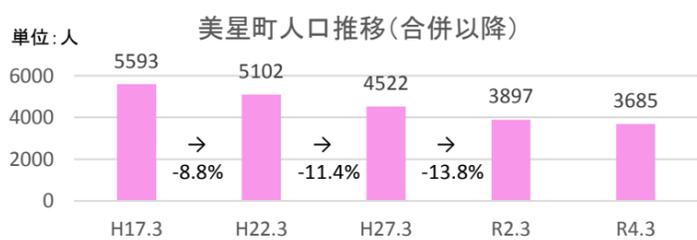
基本目標2: つながりを築き、井原市への新しい人の流れをつくる

施策: 「美しい星空」を核とした地域活性化

事業: 星の郷まちづくり推進事業、星空観望環境の整備、美星天文台の活用

3 観光振興を基軸とした持続可能な取組の必要性

<将来見通し> 過疎先進地として加速する人口減少、少子化・高齢化
⇒ 「地域コミュニティの機能低下」「空き家、空き店舗の増加」「耕作放棄地等の増加」「生活関連サービスの縮小」「行政サービスの低下」「地域公共交通の撤退・縮小」といった問題が顕在化



住民の生活利便性の低下、地域の魅力の低下による悪循環を防ぐために、交流人口・関係人口の増加と定住人口の確保を図りながら、まちの発展と近隣地域への活性化にも寄与しつつ、観光振興を基軸とした持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

4 まちを取り巻く課題

- ①地域資源の認知度向上を図るための取組が必要**
情報が氾濫する社会にあって、地域をいかに知ってもらうかが課題となっています。時代の変化に対応し、データに基づくターゲットへの効果的な広報活動を展開しながら、地域資源の認知度向上を図る必要があります。
- ②訪問客の滞在時間の延伸やリピーターの増加を図るための取組が必要**
美星町への訪問客は昼間の買い物客と夜間の星空観望目的の客は同一ではなく、長時間滞在につながっていないのが現状です。地域資源の磨き上げやコンテンツ造成、アミューズメントの創出、耕作放棄地などの低活用資産(遊休資産)の利活用、移動手段の確保等により、再び訪れたいまちづくりを推進することで、滞在時間の延伸とリピーターの増加を図っていく必要があります。
- ③観光消費額の増加を図るための取組が必要**
旅の消費目的がモノ消費からコト消費へ変化しているといわれる中で、地域が主体となって地域資源を生かした高付加価値の商品開発や体験型プログラムの造成など、観光消費額の増加に向けた取組が必要です。
- ④「星の郷」のまちづくりを支える人材育成が必要**
地域住民のおもてなし能力の向上はもとより、観光ガイド・ボランティアの育成と確保、まち全体をマネジメントできる能力を持った人材の発掘・育成など、「星の郷」のまちづくりを支える人材育成に取り組む必要があります。
- ⑤新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた観光施策への取組が必要**
感染症対策を取りながらウィズコロナ・アフターコロナ時代に対応する新たな観光スタイルへの対応が必要です。また、海外からの誘客についても今後の需要回復を見据え、受入整備を進める必要があります。
- ⑥課題解決に向けた異業種や近隣地域との連携・共創が必要**
域内外の産学官金民などの異業種や近隣地域がアイデアや知恵を出し合い、まちの課題の解決に向けデジタル技術の活用や「稼ぐ仕組み(体制)づくり」など、新たなビジネスや観光シナリオの創出を図る必要があります。

5 目指すまちの姿

「世界に認められた美しい星空環境を核に持続可能な」
星の郷」まちづくりの実現」
★来訪者の増加により、まちのにぎわいと活力が生まれ、住民や事業者が生き生きと活躍
★住民が地域への誇りと愛着を持つ
★まちづくり事業を総合的に取り扱う事業体(法人)が組織化され「稼ぐまちづくり」を实践 (仮称)美星まちづくり会社

- 【外的要因】
- ・岡山DC(R4.7～9)
 - ・秋旅キャンペーン(R4.9～12)
 - ・大阪万博(R7.4～10)

「訪れたいまち」
「住んでみたいまち」
「住み続けたいまち」

6 目指すまちの姿を具現化するための施策展開

まちの課題の中から抽出したキーワードをもとに、目指すまちの姿を具現化するための8つの施策を設定。多様なステークホルダーで構成する「星の郷まちづくりコンソーシアム」において、フィールドワークやワークショップを行い、「まちを元気にするアイデア」として事業を計画。磨き上げ作業が完了した案件から、役割分担のもと事業を展開。

施策1: より効果的な広報戦略
情報発信力を強化するため、観光情報基盤を整備
・「美星コミュニティラボ」通信事業(美星町観光協会) ・美星町観光案内所の機能強化(井原市) ※6月補正
・星空保護区特設サイトの整備(美星町観光協会) ※6月補正

施策2: 体験プログラムの開発
地域資源を組み合わせ、観光消費額の増加と集客力を持つ体験プログラムを開発
・美星満喫キャンプ事業(美星町観光協会)

施策3: アミューズメントの創出
多様な事業者が連携し、イベントの組み合わせにより新たな付加価値を創出
・星の郷フードキャンプ事業(民間事業者) **試行予定**

施策4: 全国・海外からの誘客
安心してまちを訪れる環境整備、コロナ後を見据えた人の流れの創出
・観光標識等の整備(井原市) ※6月補正 ・高校天文部応援プロジェクト(美星町観光協会、民間(旅行代理店)) ほか **R4.4 試行済み**

施策5: 遊休資産の有効活用
活用がなされていない、あるいは活用頻度の少ない資産を掘り起こし、新たな魅力的を付加
・星の郷観光案内所の機能強化【再掲】(井原市)

施策6: 移動手段の確保
観光目的に合わせて美星を楽しめる移動手段の整備
・レンタカー導入による周遊促進事業(井原市、民間事業者(レンタカー事業者))
・星の郷観光周遊タクシー運行事業(民間事業者(タクシー事業者))

施策7: デジタル技術の活用
デジタルマーケティングやデータに基づいたマネジメント体制の構築
・美星魅力発信事業「ECで稼ぐ!!」 **0円タクシー事業実証済み**

施策8: 異業種や近隣地域との連携
地域の課題解決に向け、民間のノウハウを積極的に活用
・人・まちが輝き続ける持続可能な健康支援事業(井原市、民間団体) ・官民共創による旅行商品造成
・星の郷ワイン産業創出事業(井原市、美星町観光協会、民間事業者) (民間(旅行・運輸・その他)、井原市) **JAL、JR西日本などがツアー造成**



重要業績評価指標(KPI)

目標	基準(R1)	目標(R7)
美星天文台を訪れる人数	16,856人	24,000人
星の郷観光案内所年間来客数	416,238人	446,000人

※第2期総合戦略より

7 計画の推進方法

住民、観光協会、関連団体、関係機関、民間事業者及び井原市の役割を明確にし、相互の連携を図り、互いにアイデアや知恵を出し合いながら、共創により本計画を推進していきます。

